

馭戎慨言

下之下



不渡  
郵傳

馭戎慨言下之卷下

……六乃豊國神のてりもんのおまをうらひ

後湯成天皇は御せふしして又祿元年よりまゝに治まり給

その途ちやくく関白のつしをば。秀次君おゆづり

まのひく。大内とみんしる。此のたがくは肥前松浦

那波那護屋の伊呂波くまうて。佐前宰相秀

家卿をよぶてのいくこの君と。加藤主計頭清正小

西撰津守行長をよぶて。そのかあささの大

名うらふびく。……

元啓記  
念文庫  
印

○下之下

○初

くわの玉王をばひかして。その國をのころとくか  
くちちごり。又りわりののぶより。うちし軍をかし。  
がくをきをえんかどして。こかくを<sup>救</sup>ひしあし。  
致しひびとよ軍のころり。いしきしき  
いしきひかりきると。皇女の書しと。朝鮮り  
し書のしと。つがとふとせと。けし  
明のむを。神宗とら王がせし。萬曆廿年とし、<sup>鴨綠江</sup>の  
まなりし。小。西の軍ふあを<sup>鴨綠江</sup>の  
し。しと<sup>粟</sup>いひし。その王と<sup>ソカセト</sup>官人しと。いし  
くおらをのきまつ。計不知所出<sup>周章</sup>とせ<sup>周章</sup>あしあし

きし。朝鮮王の平壤とし、所へかそのとを  
しえいし。し。し。し。義州とし、し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。  
し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。し。

いまわいのこばう盛みたりふあせても。やうやく  
辭とぞしもの。とぞくくもくつるふたりし。いづく  
くらをしく。わんもどみりし。いづくその年の八月。  
、行長平壤よりつらき許へ。明王より遊撃將軍沈惟  
敬といかとの牙もく。びびをこひりふ。行長あひて  
七條よりおまを伴ひし。明王よりを承諾  
軍をやえん。六十日がわらふ報とぞといひ  
そ中りた。又そのとさ沈惟敬がりくかうし書あり。  
日本差来先鋒豊臣行長。謹啓大明遊撃將軍沈公  
閣下日本絶朝貢者久矣。数年雖求計和議於朝鮮

朝鮮不應日本之求。故起兵矣。惟時閣下未平壤。實  
兩國復舊規之起本。乎抑閣下以轉奏遣天使於日  
本。以為和親之驗。則幸莫大焉。若見許天使。則相待  
者以中間五十日為期。若又悞期者。則難留日本。諸  
將於朝鮮城中。伏乞亮察。誠恐頓首不宣。といふ。明  
の書とぞし。宗應昌得傳報。惟敬書といふ。はるさるぞし。  
とぞい書ふ。謹啓まくと。いづくいづく。いづく論明遊  
撃將軍とぞべし。とぞ日本絶朝貢といひり。とぞい  
ゆきとぞもり。とぞいづく。朝鮮の懲忌録といひ。とぞ  
いづくの軍のいづく。皇女の玄蘇といひ。いづく。

朝鮮人密々語々詞々中國久絶日本不  
通。朝貢。平秀吉以此心懷憤恥欲起兵端朝鮮先為  
奏聞使貢路得達則必無事といひ。又用ドほう一が。  
又於朝鮮人いひひも詞一し。日本欲借道朝貢中原。而  
朝鮮不許故車至此といひ。今の書の趣一々も亦詞  
とり々も同一。りと々も以ほ々も一一ハ一方の四軍於  
中亦ありて。朝鮮りり々一の書の往來々もをつ々か  
々りのあ々もハ一けり々も書と々も々も々も々も々もを。  
朝貢な々もハ一かか々もハ一のが々も々ものんりて々も。  
又々も々も々も々も々も々も々も々も々も々も。

かか々も々も一一朝鮮王ハ々も々も一一書一ハ一只以欲復々も怒  
也い々も々も々も々も々も々も々も。又因の  
ハ一ハ一々も々も々も々も々も々も々も。後の世ま  
々ものハ一一々も々も々も々も々も々も。まま々も々も々も々も  
々も々も々も。まま々も々も々も々も々も。まま々も々も々も々も  
天皇のハ使あ々も々もハ一々も々も一一々も々も々も。一一ハ一足下轉啓明主  
遣使日本ま々も々も々も々も々も。難留日本諸將於朝鮮  
城中とハ一々も々も軍朝鮮ハ々も々も一一。明玉々も々も々も々も々も々も。  
人と々も々も々も々も々も々も々も。みつ々も々も々も々も々も。誠  
恐頻首々も々も々も々も々も。一一ハ一書一ハ一々も々も々も。一一ハ一々も々も。



不相登。大明之例。朝鮮之都。可被遣。四箇道。以  
王子二人之儀名。非下之者。一條。其攝。其奉。為四  
人。清取。唯今遊擊。左派。朝鮮。必入可還。一於朝鮮  
家老之者。永代。其遠。有。其。誓紙。之。右之  
起。一。大明之勅使。一。牧使。城取。卷。仕。寄。築山  
一。付。手。負。女。之。樣。令。覺。悟。如。何。養。夫。夫。子。仕。一。入。月  
一。於。其。上。赤。國。へ。其。勅。の。成。敗。の。事。  
一。赤。國。成。敗。之。上。の。右。前。之。城。を。持。依。人。殺。之。多。少。

城之大小。俱見計。夫。一。可。被。持。一。中。國。元。隆。景。四  
國。元。船。手。之。者。之。九。州。元。之。外。の。男。釜。山。浦  
熊。川。浦。其。近。所。に。於。之。一。兵。糧。藏。之。事。其。城。持。應  
人。數。を。定。て。入。置。之。一。地。増。右。同。方。の。一。鉄。炮。五  
藥。一。を。同。方。の。一。自。然。大。明。必。流。傳。言。上。に。以。て  
云。其。油。断。太。之。通。に。付。以。未。年。名。護。屋。へ。被。成。  
一。仕。在。等。於。此。の。上。者。備。前。  
宰相。の。者。名。護。屋。へ。下。の。互。城。の。付。壹。岐。對。馬。の  
御。馬。色。子。互。番。被。付。之。一。於。以。攝。斬。委。曲。熊。谷  
半。次。水。野。玖。左。米。門。兩。人。被。付。念。の。事。文。祿。二。年。五





成王の女を皇后よとむる。いとまきしりしきさやめし。  
 又いのいさひさきよと。あらしきさ。明王之息女為。  
 日本帝王之皇后。ておほなごころをいけり。つとまけしけり。  
 帝王。又いしり。行長をどし。明の使は者と。ふびお  
 びつびの書をしらるる。つとまけし。書りし。大略記  
 とし。ゆりふのせり。ま国のいとつと。あさともはさる  
 地を。いとく。あかま。けり。せおかし。びつらふ  
 かの川ゆく。いく。日本間。和親之實。遂結。属國之  
 約。則以日本為先驅。伐韃靼。何不歸。大明之掌握。手  
 といつ。といり。属國と。朝鮮かとのこと。わたりし。

天皇もいひつる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 ことごとしいひあさ。いけり。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 いく。日本、誠心、奏天朝。云々。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 又かよりのあさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 書在。棟東雖然私而決之。則似無天王及固白。故馳  
 使告之。といへり。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 天皇よりのあさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。  
 天皇よりのあさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。あさともはさる。

皇朝のくびりかくもさかたを志すはげはるがごとし。

天皇をくびりたり給ふのこゝろにび。スくしゆふのよふに

事をお先とあはれごし。もねも。まけけ方の大岡と明

王とのむむつひあどあとし。うまひを帝しかりて。かの

かうへとりやま。とぶくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

て。まがひくをのこまふま。にが一きれがまきて。あはれと

かか。くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

天皇をくびりたり給ふのこゝろにび。スくしゆふのよふに

あはれと。まがひくをのこまふま。にが一きれがまきて。あはれと

てのへ謙くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

し。物ををよ。くくくくくくくくくくくくくくくくくく

天皇れま。くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

を等ば。くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

天皇ふさ。くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

天皇のく。くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

天皇れ皇の字をく。天王たり。くくくくくくくくくくく



明日不也。日本明國ともふべし。奏達といふ。大岡の御許  
へしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
也といふ。

天皇へしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
人のつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
おつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
しつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

天朝への事とすいひしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
皇京とありしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
かつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

て。いふしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽  
まもしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

皇朝

へしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

く。いふしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

いふしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

きしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

日本傳明詔遙出大唐報聖光といふ句あり。とつゝ

をいふしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

力をいふしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

をいふしつゝしつゝしつゝ。奏字といふ。秀次可達之於天聽

清々ど。皇宮と亮しありていへる河えんつう。くぶんを  
すまをいふんよ。のちまをむとつうらきびいしくこりあ  
て。ゆるうつうらめくくは。にまへへといへるこもささく  
あかえん。うそい使まのくうらまうつめ。賜ひいし書り  
あり。一和平誓約無相違者、天地縦。雖盡茲矣。不可  
有違變也。然則迎大明皇帝之賢女、可備日本之右  
妃事。一兩國年來依間隙、勘合近年及斷絶矣。此時  
改之。官船高舶、可有往来事。一大明日本、通好不可有  
變更之上。兩國朝権之大臣、互可懸誓詞事。一朝鮮遣前驅  
追伐之矣。至今、弥為鎮國家、安百姓。雖可遣良將、此

学

士

詰責

條目件々、於領納者、不顧朝鮮之逆意、對大明分八  
道。以四道在國城、可還朝鮮國王云々。一四道者既  
返、授之。然則朝鮮王子、并大臣一兩員、為質、可有渡  
海事。一本年朝鮮王子二人、前馳者、生擒之。今為四  
人、度與沈擊、可歸舊國事。一朝鮮國王、之權臣、累世  
不可有違却之旨、誓詞可書之。如此者、為四人、向大  
明、唐使、尋々可陳說之者也。文祿二年癸未、六月廿  
八日。秀吉朱印あり。去去年の八月、朝鮮の平壤  
にて。行長が沈惟敬を伴して、平壤に上り、そのころ  
いし書りのみちうらめくくと、同じ書りし、やまの多し。し、西土

○下之下

○上

の巻も。とくく〜。但〜。浅野源兵衛ど  
み人〜作〜。日本帝王之后と〜。と。  
今明の使〜作〜。帝王と〜り〜  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

る。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。  
〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

の字皇字カごれたるひと。おかくらわりのていよ  
くつむ乃を（<sup>タノ</sup>）をりてべし（<sup>マコト</sup>）なり。さ  
て又（<sup>ハ</sup>）増田（<sup>ニ</sup>）歩（<sup>リ</sup>）村長盛。石田（<sup>ニ</sup>）治於火陣三成。  
大谷刑部少輔吉繼。小西撥津守行長し。曰人（<sup>ハ</sup>）作せ  
つぎし（<sup>レ</sup>）伝書（<sup>リ</sup>）。對大明勅使可告報之條目。一夫  
日本者神國也。神即天帝。天帝即神也。全無差。依之  
國俗風度。崇王法。體天則。地有言者。令。雖然。風移俗  
易。輕朝命。英雄爭權。隣國分崩矣。予之慈母懷胎之  
初夢。日輪入胎中。覺後驚愕。而即相士卜之。曰。天無  
二日。德耀弥。四海之嘉瑞也。故及壯年。夙夜憂世。慈

國再會復。聖明於神代。遺威名於萬代。思之不止。終  
經一有（<sup>レ</sup>）一年。族滅凶徒。姦黨而攻城。無不捷。敵伸無  
不廢。有非心者。自消滅矣。已而國富家娛。民得其所。  
而心之所念。無不遂。非予力。天之所授也。一日本之  
賊船。年来入大明國。橫行于處。雖成寇。予曾依有。  
日光照臨天下之先兆。欲臣曰八極。既而達崎邊。取  
海路平穩。通貫無障礙。制禁之。大明亦非所希乎。何  
故不伸謝詞耶。蓋吾朝小國也。輕之侮之乎。以故將  
兵。欲征大明。然朝鮮見機。差遣三使。結隣國。免隣丁。  
前軍渡海之時。不可塞。報道不可逸。其路之旨。約之

而歸矣。一大明日本會同事。從朝鮮至大明。啓達之。  
 三年內。可及報誓約年之間。若可復干戈。昔諾之。年  
 期已。雖相過。無是非之告報。朝鮮之妄言也。其罪可  
 逃乎。各自已出怨之所攻也。欲匡違約之旨。於是設  
 滿。築城。高。墨。防之矣。前驅以寡擊衆。多々列其首。疲  
 散之。群卒伏林。恃蟠臂。拳。蟹。戈。雖窺隙。交。鋒。則潰散。  
 追北。數千人討之。國城亦一炬成焦土矣。一大明國  
 救朝鮮急難。而失利。是亦鮮及間之故也。於此時。大  
 明之使兩人來。日本名護屋。而說大明之論。言答之。  
 以七件。見于別幅。為四人。可演說之。可有返章。問者。

相追諸軍渡海。可遲速者也。六月廿七日。秀吉朱印

とりり。は。治。書。り。ふ。り。ま。り。い。明の使。入。て。

の。王。と。し。き。う。せん。と。あ。る。べ。し。物。ふ。ち。め。し。つ。つ。お

り。と。く。を。あ。ま。り。う。人。う。り。〜。と。思。つ。て。例。の。詞。の。い。と。つ

り。あ。さ。い。さ。し。う。あ。と。い。し。し。い。ひ。ご。ま。り。ま。り。〜。〜。〜。〜。

ぐん。さ。か。ま。〜。〜。〜。〜。國。信。〜。か。さ。の。ま。お。〜。人。を。〜。〜。

へ。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

あり。詞。也。王。法。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

佛。法。法。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。

ま。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。〜。



○佛がぞくんとくつう河つう入るにありまじ。吾朝が國也。  
輕之悔之乎。お河も。お懐良親王のいさよのぬぐひ  
して。俗のものいゝなりぬまのし。説大明之論言。  
ろし。明使兩人來。遂其王之意。たはむべし。そん  
くつふをうねま。おがやきのとしもいづしのも。  
が皇まののりをもふ<sup>導</sup>らるるたまふいひ。つづしおのまを。  
おま<sup>畢</sup>くちひい<sup>小</sup>まゝぞしりしき。そといゆ書。たててのま  
じまひしてりし。おのつあまりし。まどをのつま  
ま。おふ先をうねを。河のつらまも。おんゆくどう  
いえつらぬやくらをうまや。うれけたてく那護屋へ

ありし。明の使の來。お解して。お内のいくこのを<sup>首</sup>さる  
宋應昌ちど。沈惟敬とつしひく。おそふちりし  
しきちど。おの王々をうづりし。や。おらうのぬ  
ま<sup>議</sup>し。まぶく<sup>議</sup>るんぬ。おんけい<sup>議</sup>じつひののめ<sup>議</sup>のか  
して。兵部尚書石星といふ。ま<sup>官人</sup>官人。おんしり沈惟  
敬<sup>議</sup>もを<sup>議</sup>伝して。王<sup>議</sup>してうりて。まひてうしひつ  
まは。お<sup>議</sup>つりぬぬま。お思つるものも。お  
かく。お<sup>議</sup>ふく<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お  
沈惟敬とつしひく。おを<sup>議</sup>つるま。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。  
ま<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。  
お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。お<sup>議</sup>るんぬ。



まがふおわらば。まじりびのあやしむりぞぞんハ。  
物くふおあまてこと。はむつびのこ。探いしむらじりて。  
沈惟敬がいつとつとつんとおひいひまのつとつとつし  
ホイりて。は如安をとし。スーく遼東といひあつて。あつて  
て。王がさうへへてよむとぞ。はまじりて。おあつて。あつて  
とふ。朝鮮王とやく日おねびつびをさつて。おのおおと  
やせりまか。さつて。明王へおひひらさつて。石星よらつて。  
あつて。さつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
も北京へをよびよせつて。如安をさつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

まてらさつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

ちりのまきふ。

天皇上一... 関白はまことの王にあらざるべし。  
ひつびい... といひやせんともあらざるべし。今ハ  
関白も... といふも。関白はまことの王にあらざるべし。  
らふ王... といふも。上より下へ君のまきをまきつ  
り... といふも。ちりて。ちりて。ちりて。ちりて。ちりて。  
あつて... といふも。日本王見住山城。有文禄三年曆。  
可證。與小西飛称國王為信長所殺。互異といひ。あつ  
ち其國主以王為姓。歷世不易。號曰天正王。不與國

事。不轄兵馬。惟世享國王供奉而已。每元旦國王率  
一大臣謁天王。其受國事掌兵馬。皆國王與関白主  
之。関白。倭之大頭領。即漢大將軍宰相。即此是也。  
いひ。又いへ。大関を王に封ずんとす。いへを...  
て。日本有山城。君在。雖其懦弱。名分猶存。一旦以天  
朝封號加之。僭逆之夫。且將置山城君於何地。云  
子。... 今如安... といふも。いへを...  
石星... といふも。いへを...  
... といふも。いへを...





かわひふかき、ちかきもほろし。まゝのうらやまをいふえりのまじり。
 せりやうして。しんしんくきやまをいふん。但し、はな
 記といふまゝい。いさゝか大岡の座より、川に降る。明の
 使の座をすしきりたる。ひりり。それ、天子
 にお使をいふ。いかに座りしとんぬ。冥白あつたのをい
 ふ。かや恭敬敬しくいふのうを交りいふ。まじり
 ことしきろを。まじり。あつて。いさゝか西き。まじり
 しくりりり。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 かも。明のまじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。
 とまじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。

まじり。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 平壤録といふ書あり。楊沈見関白卑屈状。有不堪言
 者。隨行護勅官徐志登。歸私對人言之。故知小人不
 當兼用兼也。といつたをや。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。
 まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。
 白三日。ゆあつて。明の使ごとく、いかにいかにいかにいかにいかに
 命をいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 といかりり。冠をいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。まじり。
 相國寺のわかし、兼亮といふ。明王がすけり。ゆえん。まじり。

手せす<sup>あ</sup>後<sup>う</sup>ふ。さ<sup>あ</sup>相<sup>あ</sup>し<sup>く</sup>お<sup>が</sup>り<sup>し</sup>あり<sup>ふ</sup>ん<sup>し</sup>く<sup>む</sup>  
ひく。是<sup>ん</sup>く<sup>い</sup>み<sup>し</sup>く<sup>が</sup>ら<sup>り</sup>き<sup>ざ</sup>ら<sup>り</sup>い<sup>ん</sup>し<sup>く</sup>あ<sup>く</sup>ぬ  
や<sup>あ</sup>れ<sup>ん</sup>ふ。封<sup>つ</sup>爾<sup>が</sup>為<sup>す</sup>日<sup>本</sup>國<sup>王</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>る</sup>あ<sup>る</sup>を<sup>さ</sup>じ<sup>し</sup>  
り<sup>て</sup>。城<sup>し</sup>ふ<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>い<sup>し</sup>く<sup>り</sup>治<sup>ひ</sup>く。  
の<sup>れ</sup>王<sup>と</sup>を<sup>明</sup>の<sup>國</sup>王<sup>と</sup>あ<sup>り</sup>し<sup>る</sup>ん<sup>と</sup>し<sup>り</sup>。  
せ<sup>し</sup>ふ<sup>ら</sup>り<sup>て</sup>し<sup>や</sup>。於<sup>於</sup>鮮<sup>の</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>じ</sup>し<sup>を</sup>い<sup>し</sup>。軍<sup>を</sup>  
の<sup>釜</sup>山<sup>ま</sup>で<sup>あ</sup>り<sup>せ</sup>つ<sup>と</sup>。日<sup>本</sup>王<sup>と</sup>い<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>  
封<sup>つ</sup>。い<sup>の</sup>ふ<sup>ら</sup>が<sup>も</sup>封<sup>つ</sup>。を<sup>ら</sup>ん<sup>し</sup>  
の<sup>長</sup>。明<sup>王</sup>よ<sup>ん</sup>を<sup>ら</sup>り<sup>し</sup>。人<sup>を</sup>い<sup>し</sup>ひ<sup>く</sup>。それ  
を<sup>わ</sup>ざ<sup>い</sup>さ<sup>ら</sup>る<sup>罪</sup>。い<sup>ん</sup>し<sup>く</sup>い<sup>し</sup>。

死<sup>し</sup>て。た<sup>て</sup>ま<sup>ら</sup>る<sup>冠</sup>。い<sup>し</sup>も<sup>い</sup>書<sup>も</sup>い<sup>し</sup>。か<sup>ら</sup>る<sup>を</sup>  
に<sup>あ</sup>ぎ<sup>ま</sup>で<sup>後</sup>い<sup>し</sup>。ま<sup>さ</sup>し<sup>も</sup>い<sup>し</sup>ぬ<sup>へ</sup>さ<sup>ら</sup>ら<sup>り</sup>。  
う<sup>は</sup>い<sup>し</sup>く<sup>。兼</sup>充<sup>ふ</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
い<sup>。君</sup>う<sup>あ</sup>ら<sup>び</sup>い<sup>り</sup>治<sup>り</sup>ん<sup>を</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
う<sup>し</sup>い<sup>く</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
又<sup>於</sup>鮮<sup>の</sup>の<sup>ま</sup>ま<sup>じ</sup>し<sup>を</sup>い<sup>し</sup>。  
を<sup>い</sup>し<sup>く</sup>い<sup>し</sup>い<sup>し</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
つ<sup>ら</sup>り<sup>つ</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
い<sup>し</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
い<sup>し</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>  
い<sup>し</sup>。い<sup>ま</sup>あ<sup>る</sup>の<sup>ま</sup>に<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>





甲はたぬおさのこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 むのふくしん<sup>てい</sup>のこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 とむくしん<sup>てい</sup>のこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 きて。あはゆまのこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 の人々のあひひ。まはゆまのこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 いふかひのこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 いでうごしん<sup>てい</sup>のこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 して。まはゆまのこもくたむあひひ。まはゆまの枝  
 贈る物といひく。おの<sup>得</sup>えつた物をもくたむあひひ。まはゆまの枝

くりまうきし<sup>献</sup>きかど。授けりけい<sup>ふ</sup>い<sup>つ</sup>くりきし<sup>し</sup>の  
 子ま<sup>り</sup>を。おほ<sup>ふ</sup>人<sup>づ</sup>を。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 と石星<sup>しん</sup>。おかえさ<sup>ご</sup>で。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 めさ<sup>ま</sup>し<sup>ん</sup>を。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 きよ<sup>し</sup>に<sup>り</sup>お<sup>は</sup>し<sup>り</sup>いで。お<sup>の</sup>こ<sup>も</sup>く<sup>た</sup>む<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 むさ<sup>ぬ</sup>。あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 こと。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 くら<sup>り</sup>ん<sup>し</sup>を。お<sup>の</sup>こ<sup>も</sup>く<sup>た</sup>む<sup>あ</sup>ひ<sup>ひ</sup>。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 總見院大臣のおか<sup>せ</sup>いで。あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王  
 して。ま<sup>か</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>て</sup>ま<sup>し</sup>ひ<sup>き</sup>を。王









Handwritten text in a cursive style, likely a letter or official document. The text is written vertically from right to left. It contains several lines of characters, including some that appear to be names or titles, such as "王" (King) and "守" (Guard). There are also some characters that look like "往" (Go) and "他" (Other).

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or official document. The text is written vertically from right to left. It contains several lines of characters, including some that appear to be names or titles, such as "王" (King) and "守" (Guard). There are also some characters that look like "往" (Go) and "他" (Other).





其の計、不可謂無窺中國之心。使其遣酋出衆、乘風揚  
 帆、寇我沿海府郡、備禦兵力、容有未完。一時勝負得  
 失、是未可知也。又々一由朝鮮、渡鴨綠江、而上  
 一由山東海面、乘風疾趨、設有疎虞、令倭得長驅而  
 入、震驚宸極。此不可以不慮。

其の計、不可謂無窺中國之心。使其遣酋出衆、乘風揚  
 帆、寇我沿海府郡、備禦兵力、容有未完。一時勝負得  
 失、是未可知也。又々一由朝鮮、渡鴨綠江、而上  
 一由山東海面、乘風疾趨、設有疎虞、令倭得長驅而  
 入、震驚宸極。此不可以不慮。

うては心のまじし。軍がどつとつちよ。先づこの心も  
 どの心も入りの心。心をばすと。おとよまよをいひく。滅  
 しつたがく。又まの内の内を狭めてん。いひく。  
 しつたがく。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 皇朝のみ改布播。いひく。いひく。いひく。  
 天々服事。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。

おなむね。

皇朝のみ奉正朔。

いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。  
 いら。いひく。いひく。いひく。いひく。



朝鮮明の人をも。け人をば。ねふいじ  
さめよ。かりひく。平壤録といふ。清正才能勝行長。教  
倍かどぞ。やいつのころ。おきて大谷。朝鮮をいりり。く  
す。ふみめひく。ばし。又し。こと。を。せん。を。ね  
ふ。け。及。と。加。友。小。西。を。かん。先。鮮。の。作。せ。り。小。ぬ  
か。し。て。殺。さ。ふ。り。り。し。と。ま。づ。く。ゆ。た。く。を。け。だ  
の。い。く。この。あ。さ。ま。ふ。あ。ぶ。ひ。て。ぞ。う。と。か。く。と。し。く。ひ。清  
り。ん。と。く。か。ま。う。と。ま。又。明。より。ひ。び。び。を。こ。ひ。り。ま。か  
ど。あ。ら。ん。し。と。け。だ。れ。と。て。ま。づ。清。正。と。し。ひ。て。よ。か  
長。い。え。り。と。る。ま。づ。知。る。かん。いま。し。め。つ。り。き。ま

孝長二年の正月、軍をば。く。ふ。か。し。け。了。そ。又  
し。と。城。を。あ。ま。さ。さ。め。か。く。して。い。う。け。い。ま。か。ひ  
かり。ま。ま。め。り。り。し。又。ま。く。ひ。の。軍。と。あ。く。と  
ま。く。ホ。さん。議。あり。又。沈。惟。敬。使。と。して。軍  
の。い。か。ま。あ。く。ま。く。川。く。づ。き。し。り。よ。  
う。ま。く。り。り。か。う。れ。し。と。ま。ひ。り。て。ご。と。く。け  
朝鮮の三道を。め。献。す。と。う。ま。く。し。に。軍。と。さ  
し。し。り。ふ。三。道。し。は。忠。清。道。を。尚。乃。全。羅。道。を。り。か  
つ。ま。う。り。り。し。と。ま。く。日。本。小。の。献。す。と。ま。く。け。か。ま  
の。あ。ら。し。い。と。あ。ら。し。り。かん。と。く。明。の。を。さ。ご。と。し。り

一、うきむのバ。惟敬ハ思ひこぼり。清の汗は書  
まうく。邢總督大兵七十萬將至。敎其退兵し。あざり  
おこせり。清正一ケ。大師言大明之兵皆至。  
是我所願也。朝鮮弱兵而無向我敵也。對大明之兵。  
快作一戰。則朝鮮國者不足言大明北京燒却之。不  
可回首。幸又幸也。餘不具。とやいひや。といり。うき  
むれといふんし。うきむれ。さへて。やふをり。おき。はく  
さる。さう。あ。ら。る。は。く。さ。り。き。但。し。さ。り。う。き。や。さ。さ。り  
と。お。お。お。の大。の。大。の。字。お。お。お。を。つ。さ。あ。さ  
ら。い。お。ら。る。ま。北。京。燒。却。之。と。い。う。と。何。と

とやいふ。うきむれ。直抵北京燒却殿堂。縛  
爾王。回而獻大閭。身。と。あ。ら。ま。か。り。き。清正記  
し。い。一。支。派。二。年。ゆ。長。が。平。壤。を。や。ぶ。り。ま。を。お  
ま。お。い。く。し。ら。ひ。清。正。記。咸。鏡。道。と。い。う。と。お。は。り  
ら。り。い。は。お。い。ひ。つ。り。や。り。た。へ。於。鮮。の。地。畧。を。す。ま  
ら。り。お。お。の。を。さ。宋。應。昌。と。い。う。の。故。を。う。し。て。  
い。う。く。が。お。う。と。か。こ。で。し。た。れ。の。ひ。人。の。と。ま。り  
お。ひ。ま。り。う。き。の。書。と。同。と。ま。ら。り。か。た。つ  
る。お。お。ま。ら。り。や。り。ん。か。ら。て。沈。惟。敬。を。今  
か。ら。ら。り。つ。さ。せ。せん。と。い。う。た。り。つ。さ。せ。明。の。軍。を。お

ぎく。ふゆりあさぐひて。余をすくんとせしむ。  
 えふぞりへで。ぎくへちりて。むとやふ入ら。以後  
 この情ふゆし。漢野五系大支素長ゆし。蔚  
 山の城とつるふとよりしを。朝鮮と明と二は乃  
 の力たげらつをつりて。日收へくでんうをせ。た  
 てもらてらる。つひに釜山しもくし軍のめをきま  
 たりしふりて。いづしきまやぐしを。と  
 めふふりあへで。うかあさつり。又島津兵庫叔義弘  
 のつるふとまる。新塞の城とつるをせりつるふと。えか  
 ことば。つりていづくやぐしを。くくの明のいくさ

といつていかりを。いふそのゆをさふこへらるべ  
 きまといわらば。まいて朝鮮のいくさ。たの戦とあ  
 かりまらば。い方ともその王をいひおとさんといしや  
 ともく。我をさまかくせえりてゆふした。明の  
 金やうし。いしつくとつるふ。い方たをさる  
 つる味を。いしつくとつるふをのびねとらして。あ  
 のそみぢんのふまかく。いづるふ月日をおらうて。  
 そのいしとらうと。又の奉ね秋までと。まそのつら  
 ぶ。そのつらふ。いしとの方よ。いしとらうか。いしと  
 まいにせし。いしと。いしとを明のまきとらう。いしと

出乃軍の首をさねくしひし。よきなをいひ  
ひのぶきりひし。はまの軍いえうごうじり  
すしあさきぎ。ういごうとよあつむ。けを  
のがん。たといそりて。たれしら<sup>約</sup>ら  
すしをぶふ。明王しげひきす。於鮮の飛をい  
て。軍くし。活りのふんよ。そのひひ。清ら  
ん。も活りくもつを。い人も直くて。おめ  
きし。やうに。あみぢらふじひをこのくんと  
し。かうき。沈惟敬をいひ。おん<sup>命</sup>の  
このいひつき。おの。おのの

すしを。すしをいひ。味をいひ  
し。いひ。いひをえり。ス  
む。大園<sup>養</sup>。その八月十八日  
き。いひ。いひをいひ  
ん。於鮮の<sup>役</sup>。いひ。おて。やま  
ま。七。いひ。いひをいひ  
し。いひ。いひをいひ  
し。いひ。いひをいひ  
息長帯姫尊<sup>オキチカダシ</sup>おゆ<sup>故</sup>をいひ。いひ。いひ

き林くちを。せんぐりーに。はさ祭るをひく。寺具  
しあまのふさをほくいのふし、たひくくしと。おもひい  
ひくともひらぬべしうきを。く。たひくひ林し  
をががししとをて。たぐしおぼいさかひと  
のくおきひしし。い。ふぞや。又は軍れんく。い。さ  
かいまをせてふをこうら虎狼しうきし。いちややくわ  
らびて。物群の退とあさ民を。い。くきさいのし  
めをけひし。いとわらふかし。い。くし。たひ  
ほくしきし。かつしとぶしりうき。たさしとや。林  
のふんはうふさひく。うてもをたひみんとし。は。物  
群

群かといふ。今かとのまをどく。ひとくく。帰る  
きし。のさ遠まひか命まし。ふしうく。口軍をどく

ふか、けりりぬ。物を明の書ゴとし。か。その軍  
の首か、いひく。かひいし。つらうくふ。  
例のし。だきく。あさし。か。さ。く。明の軍。  
ひし。じんあひく。ををい。さ。か。く。し。ん  
をつらし。うきく。まひいし。さ。く。て。ぐく  
し。と。えんあうて。さ。づ。ふ。した。下タビの首カウか。う。あ  
う。ら。あ。と。を。い。き。し。ら。の。ぶ。と。あ。し。今又ふし  
つ。後軍あさふし。う。く。ない。し。を。ま。く。い。さ。さ。が



東照神御祖命

天の下の御命に代りありてあり。あは  
まは。い。と。い。皇國神のい。い。さ。を。ふ。う。ん。さ。を。さ。ぐ。て  
で。い。い。い。ら。を。さ。ま。ま。か。し。り。つ。て。ふ。さ。さ。け。く。ま。は。  
や。し。お。ま。さ。け。ひ。く。ら。ま。り。ん。く。し。お。後。の。代。ま  
で。い。い。い。ら。を。さ。ま。ま。か。し。り。つ。て。ふ。さ。さ。け。く。ま。は。  
ま。は。い。と。い。皇國神のい。い。さ。を。ふ。う。ん。さ。を。さ。ぐ。て  
東照神御祖命の。天の下の御命に代りありてあり。あは

皇朝をわがまゝにさしむる御命に代りありてあり。あは  
ま。は。い。と。い。皇國神のい。い。さ。を。ふ。う。ん。さ。を。さ。ぐ。て  
い。い。い。ら。を。さ。ま。ま。か。し。り。つ。て。ふ。さ。さ。け。く。ま。は。



皇朝をわがまゝにさしむる御命に代りありてあり。あは  
ま。は。い。と。い。皇國神のい。い。さ。を。ふ。う。ん。さ。を。さ。ぐ。て  
い。い。い。ら。を。さ。ま。ま。か。し。り。つ。て。ふ。さ。さ。け。く。ま。は。  
ま。は。い。と。い。皇國神のい。い。さ。を。ふ。う。ん。さ。を。さ。ぐ。て  
い。い。い。ら。を。さ。ま。ま。か。し。り。つ。て。ふ。さ。さ。け。く。ま。は。

つゆとしかく。夫し

大將軍の御いさかひ。天地のりりひざふとやれまへむ。

その玉王くく。いづいし。いふく。よりけりぬく。や<sup>称</sup>つこ

臣<sup>臣</sup>まじし。ま<sup>婦</sup>つりひ。い<sup>化</sup>わうかんあぞ。い<sup>化</sup>わなぞ。

あなもへし。

文學  
部  
番  
号  
167  
(四)  
彦根中學校蔵

安永七年戊戌二月晦日

本居宣長

# 鈴之屋藏板

寛政八丙辰歳四月

製本所

勢州津

山形屋傳右衛門

